

セミナー開催のお知らせ



ただいま、参加お申し込み受付中です。
ホームページ、E-mail、ファックスにてお申し込み下さい

皮膚病理講座 基礎編 (東京)

専門医になるために必要な皮膚病理の知識や
専門医試験受験対策を含む
対象；皮膚科・病理研修医および専門医
2004年5月8日(土) 13時～17時
9日(日) 9時～16時
会場：日本教育会館(東京都千代田区)

皮膚病理講座 応用編 (東京)

臨床をみて病理を考え、病理をみて臨床を考える
対象：皮膚科・病理科専門医および研修医指導医
2004年6月26日(土) 13時～17時
27日(日) 9時～16時
会場：日本教育会館(東京都千代田区)

皮膚病理指導医養成講座 (年6回連続講座 東京)

2004年4月開講

研修医を指導するために必要な皮膚病理学

6回連続受講の他、単発での受講も受け付けます

2004年 4月24日(土)：炎症性皮膚疾患1
7月3日(土)：炎症性皮膚疾患2
8月21日(土)：炎症性皮膚疾患3 & 沈着症と
変性性疾患
10月23日(土)：腫瘍性皮膚疾患1
12月11日(土)：腫瘍性皮膚疾患2
2月5日(土)：腫瘍性皮膚疾患3
いずれも9時～17時
会場：山王病院 山王ホール(東京都港区)

皮膚病理診断ワークショップ 東京

皮膚軟部組織腫瘍病理診断のガイドライン作成

2004年 8月7日(土) 9時～17時

会場：エーザイホール(東京)

講師：廣瀬 隆則先生(埼玉医科大学病理学教室)

皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座 (東京会場)

手術切除される頻度の高い皮膚腫瘍の病理組織像の解説と
手術方法や切除範囲の検討

2004年 8月22日(日) 10時～16時

会場：エーザイホール

詳細はホームページをご覧ください

今月の症例



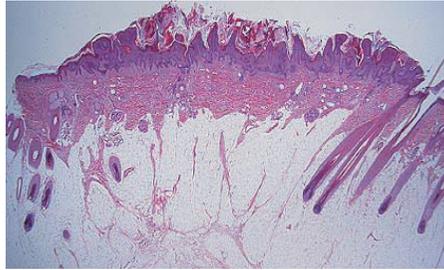
Epidermal nevus

8才、女性

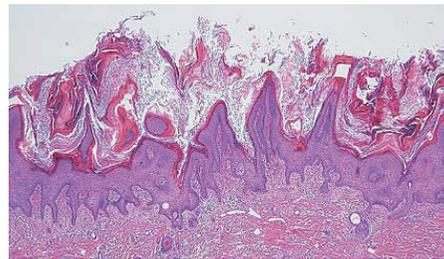
生検部位：頭皮

臨床診断：Sebaceous nevus

病理診断：Epidermal nevus



真皮浅層から深層にかけ境界不明瞭な病変の形成が認められ、
隆起性病変を形成している。



表皮は乳頭腫様凹凸を伴って肥厚し、hyperkeratosisを
伴っている。



一部では表皮と連続して小さな毛球部と脂腺が認められる。

～各種お申込・お問い合わせは当研究所まで～

札幌皮膚病理研究所

〒001-0018

札幌市北区北18条西3丁目21-793

TEL 011-756-4810 FAX 011-756-4842

E-mail office@sapporo-dermpath.com

Website www.sapporo-dermpath.com

札幌 皮膚病理 研究所 NEWS



2004年5月号

What's new?

今月の研修生をご紹介します

金森 志奈子先生(琉球大学) 前列真中



見学を訪れた、
Dr.Handerson (アメリカの皮膚病理医) 前列真中
Dr.Handersonのご主人 二列目右側



◆ お知らせ ◆

3月の1ヶ月間にご依頼いただきました、皮膚病理報告書作成件数が目標の2,000件を突破し、2,332件のご依頼を頂戴しました。皆様のお力添えのおかげでございます。今後とも何卒ご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。

コラム「皮膚外科に役立つ皮膚病理」

皮膚病理診断の現状と課題

米国の皮膚病理研修と皮膚病理専門医研修

皮膚病理診断の技術や技能を習得するためには、医療の他の科や分野と同じように指導医のもとで一定期間の研修が必要である。

まず、私がかつて皮膚病理診断学の研修を受けたニューヨーク大学医学部を例に2001年度の米国の皮膚病理の研修プログラムの現状をみてみよう。

皮膚科では3年間のレジデントプログラムの間、1年目に2週間、3年目に2ヵ月間の皮膚病理部門での研修がある。病理科では、4年間のAnatomical Pathology(解剖病理)のレジデントプログラムの2年目あるいは4年目に、1年間の皮膚病理部門での研修がある。これらのプログラムはすべてのレジデントに必修とされている。

皮膚科や解剖病理の専門医になってから1年間皮膚病理の専門研修を受けると皮膚病理専門医になる資格ができ、専門医試験に合格して皮膚病理専門医が誕生する。皮膚病理専門医は皮膚科の研修をそれぞれ6ヵ月以上受けることが要求されている。

この皮膚病理専門医を養成する研修プログラムを持っている施設は2000年の登録で全米に39ある。この制度は皮膚科学会の委託を受けたThe American Board of Dermatologyという民間機関が全てを監修している。

Skin Surgery 11(1); 00-00,2002より

石川 貴美の研修医日記

【充実した研修プログラム】

研修は他の先生方が研修医日記にお書きになっているとおり朝のリーディングからはじまります。毎週水曜日の北海道大学皮膚科及び病理部のカンファレンスに出席させていただいたことも大変勉強になりました。特に、皮膚科のカンファレンスでは、木村先生のおっしゃる「病理から臨床をみる」を実践するかの如く、研究所でHE標本をみた患者さんの臨床経過を提示していただき、本当に勉強になりました。カンファレンスに出席をお許し下さった北海道大学皮膚科清水教授には大変感謝しています。

また旭川医大皮膚科の病理カンファレンスにも出席させていただき、貴重な症例を呈示していただきました。その他、標本作製の過程を見学させていただいたり、研究所で行われる皮膚をみる会という開業医の先生及び勤務医の先生との勉強会での症例検討も、内容は濃く勉強になりました。さらに皮膚をみる会を通じてお知り合いになった先生のクリニックを見学させていただいたり、一緒に食事に行ったり充実した毎日でした。

さらに、昨年12月には、年間2万件達成記念の日、今年3月には月間2千件達成記念の日にも立ち会わせていただきました。毎日毎日マラソンランナーのように顕微鏡を覗き、診断をつけ、仕事をなさる木村先生の(実際フルマラソン3回走完なさったそうです)パワフルさにはただ、ただすごい、圧倒されるの一言です。

～石川貴美 4月14日研修医日記より抜粋～

臨床医の声

木村先生との出会いは、思えば奇跡的でした。7,8年前の東北での学会は大雨で、学会終了後市街地までのタクシーを医局仲間のS先生と待ちました。通りかかられた木村先生とS先生がお知り合いだったことから相乗りすることに。タクシーの中で気さくに夕食を誘って頂き、厚かましく御一緒させて頂くことになり、太田みどり先生とその後輩の先生方が待っておられる料亭に連れて行って頂きました。

初対面の木村先生と太田先生方の真摯で暖かいお人柄に、私はすっかり魅了されてしまいました。折しも私は開業1年前でしたので、後日太田先生の診療所をこれ又厚かましく見学させて頂きました際、病理診断は全て木村先生に依頼されていると聞きし、私も木村先生にお願いすることを即断致しました。

開業7年目の未熟な私には、木村先生の存在は大変心強く有難いものです。あの日の大雨に感謝しつつ、益々のご発展をお祈り申しあげております。

泉谷クリニック 泉谷 敦子

新たに論文が掲載されました。

木村 鉄宣 乾癬を病理診断する
皮膚科診療プラクティス

16乾癬にせまる 17-22 2004

◆ ホームページのご案内 ◆

第3回病理診断クイズの正解発表および順位発表を掲載しました。

また、第4回病理診断クイズが始まりました。見事1位を獲得された方には、A Clinical Atlas of 101 Common Skin Diseases (AUTHOR: A. Bernard Ackerman, M.D.)を差し上げます。診断を予想して、ぜひご投稿ください。

発刊責任者; 定久 恵子